

被害状況について

○秋季におけるサケ被害状況について

えりも漁業協同組合から提供された秋サケ漁獲量と、東京農業大学による各定置網漁業者への被害尾数アンケート調査の結果から、2011年から2018年の被害状況を表1及び図1に示した。(漁獲尾数はえりも漁業協同組合算出のものを用いた。)

表1. えりも地域(21ヶ統)における秋サケ定置網の被害状況

	漁獲尾数 (万尾) a	被害尾数 (万尾) b	被害尾数割合 (%) (a/(a+b))*100
2011年	51.6	1.3	2.50
2012年	85.7	2.1	2.43
2013年	121.5	2.2	1.75
2014年	117.2	3.6	2.99
2015年	148.2	3.4	2.22
2016年	38.3	2.1	5.10
2017年	29.6	1.6	5.13
2018年	84.3	2.7	3.10

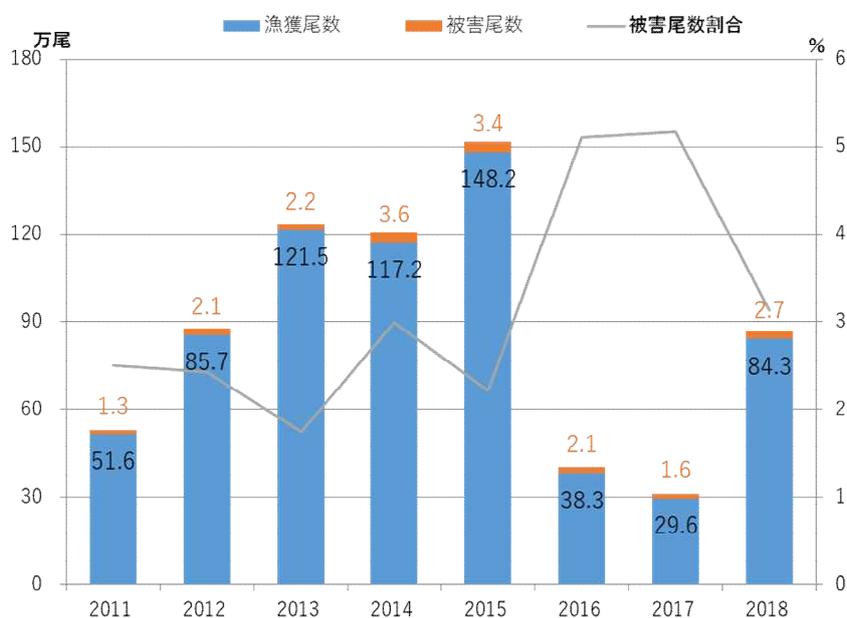


図1. えりも地域における秋サケ定置網の被害状況

平成30年度(2018年度)は、記録的な不漁であった平成29年度(2017年度)、平成28年度(2016年度)からは漁獲量が回復した。しかし、被害割合は平成27年度(2015年)以前と比べ、同程度の水準となっている。

また、2017 年までの被害額の推移を図 2 に示した。漁獲量に応じて単価が変動するため、被害額については、被害尾数の増加にもかかわらず減少傾向を示している。

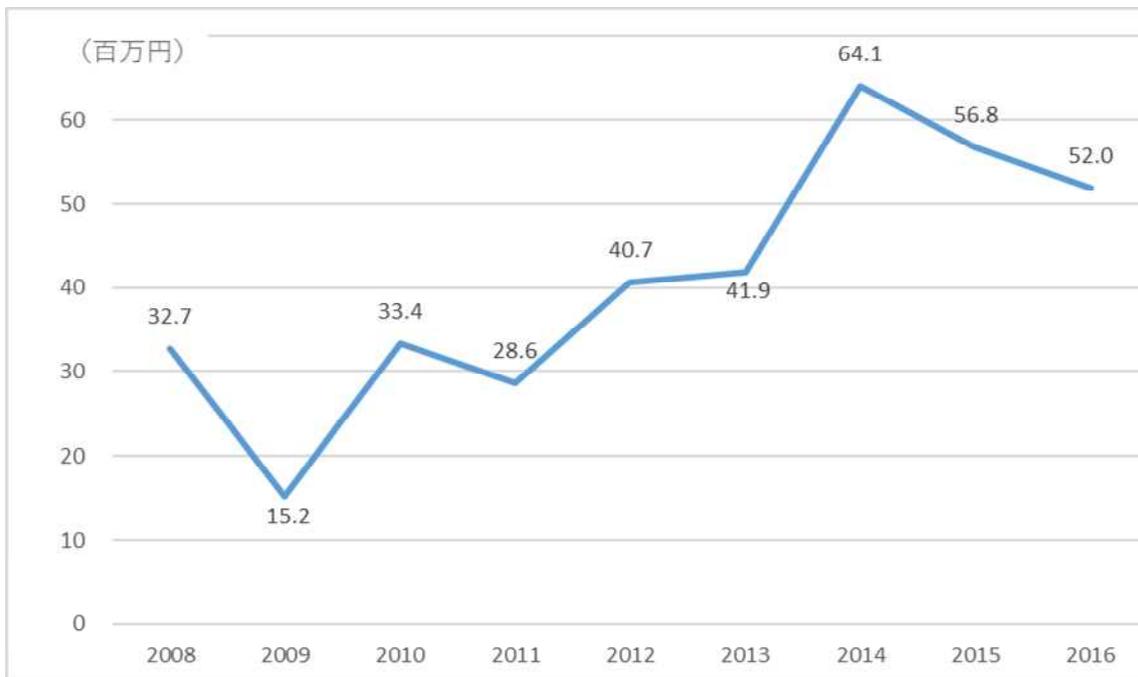


図 2. 日高管内のゼニガタアザラシによる漁業被害額の推移
(2018 北海道水産林務部公表資料より作成)

被害状況を地区別に比較したところ、これまで被害割合の大きかった東洋地区、襟裳岬地区、庶野地区については、依然として被害割合が高い傾向にあるが、被害量については、長期間防除網を設置した定置網が所属する東洋地区及びえりも岬地区で平成 27 年度（2015 年度）以前より少なくなっていた（図 3）。

これらのことから、被害の低減に向けた防除・捕獲対策については未だ不十分であるものの、対策効果が徐々に現れてきているものと類推される。

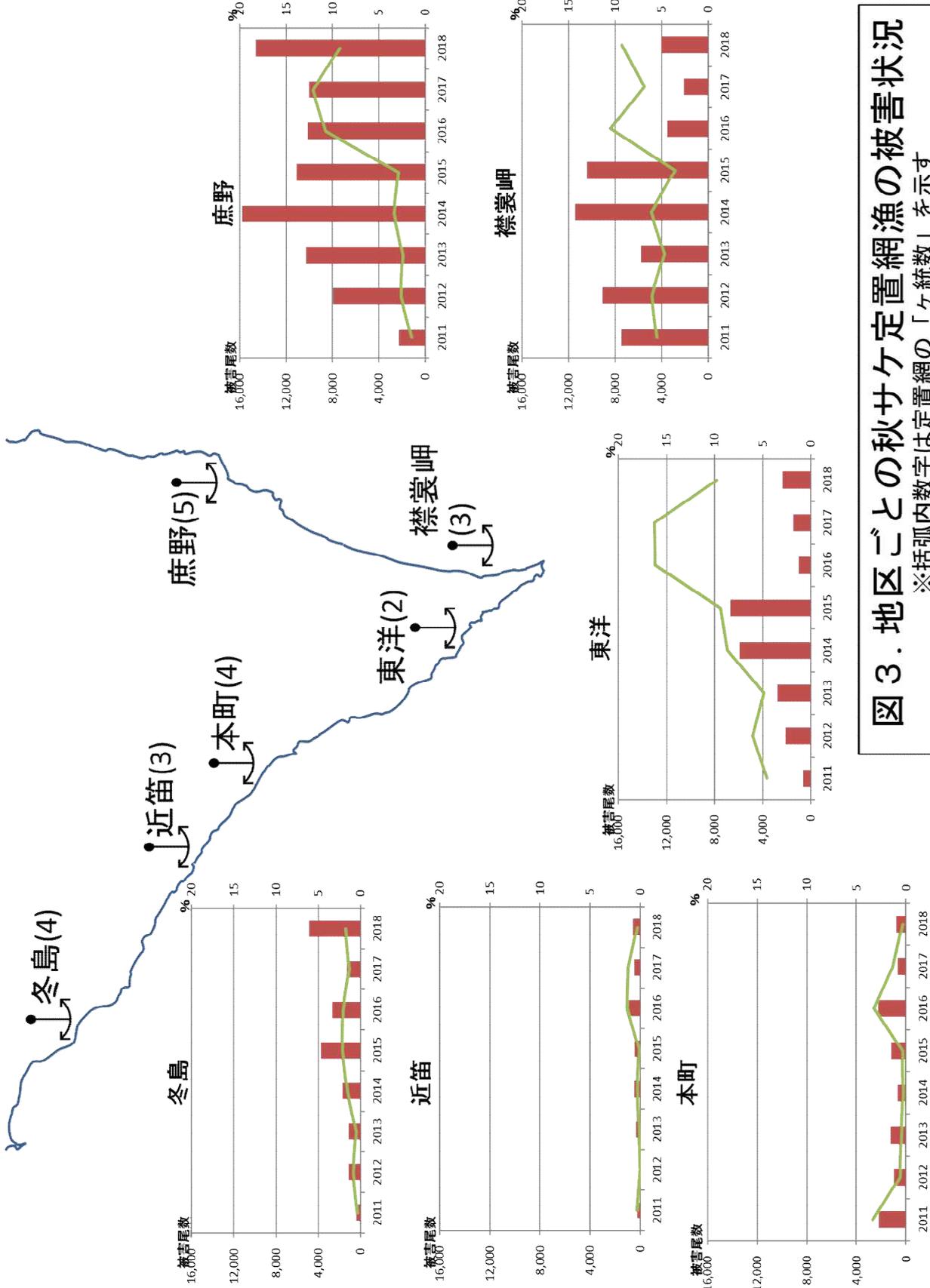


図3. 地区ごとの秋サケ定置網漁の被害状況
 ※括弧内数字は定置網の「ヶ統数」を示す